

資料紹介

団地自治会ニュース

高度経済成長期の市民生活の特徴付けられるもの一つに、団地がある。団地は、戦後復興期から高度経済成長期にかけて形作られた新たな居住形態といえる。ここでいう団地とは、主に集合住宅を指しているが、一九五五（昭和

三〇）年設立の日本住宅公団が典型的な団地を確立した。郊外に四〜五階建ての中層、あるいはさらに高層で、耐火性の鉄筋コンクリート造りの建物を建築し、二DKの間取り、ステンレス流し台・水洗トイレなどの設備を標準化し、若い核家族を中心とした新たなライフスタイルを生み出していった。

団地における生活の実情や住民の活動を記録した資料として、横浜市史資料室では団地自治会の資料を所蔵している。なかでも、各団地の自治会が発行した広報・ニュース類は、身近な生活の課題を示し、住民がそれにどう取り組んだかを具体的に伝えてくれる。

これらの資料は『横浜市史Ⅱ』編集時に調査・収集したもので、その経緯については、『市史研究 よこはま』第一二号（横浜市史編集室、二〇〇〇年）で報告している。また、『横浜市史Ⅱ』第三巻下（横浜市、二〇〇三年）の「市民生活」では、これらの資料を使って団地生活の一端を示し、その歴史的意味を論じている。

現在では、かつての典型的な団地に代わってニュータウンやマンションが、集合住宅の典型となっている。また、団地も建て替え問題や高齢化など新たな課題を抱えている。そうした現在の生活や課題の出発点としても、高度経済成長期の団地生活を振り返ることは意味があるであろう。

ここでは、市史資料室が所蔵している団地自治会資料の概略を述べ、その内容の一部を紹介したい。

新しいコミュニティ

それまでの地縁・血縁から切り離されて団地に入居した若い核家族は、その地で新たなコミュニティの創出を試みる。基盤整備の不十分な郊外の団地のなかで、様々な環境整備や生活上の課題の解決に取り組み、その主体となったのが、各団地で結成された自治会組織であった。そして、コーラスなどの趣味のサークル、子ども会などの活動、盆踊りなどの定期的な行事の定着、そして団地牛乳や生協など、自治会を中心に様々なコミュニティと活動が生まれていった。

各団地の自治会は、毎年総会を開き、定期的に広報のために会報やニュースを発行していた。しかし、総会の記録や会報・ニュースを体系的に保存している自治会は少ない。現在市史資料室では、日吉団地・左近山団地・公田町団地・仏向町団地・西寺尾団地のニュース・会報あるいは総会資料の複製

製を部分的に所蔵しているのみである。この他、戸建て住宅の団地であるが、高舟台団地・上郷団地のニュースも所蔵している。また、『汐見台ニュース』という汐見台団地の住民が中心となって編集している地域新聞もある。

『汐見台ニュース』は一九六五（昭和四〇）年の創刊から二〇〇七（平成一九）年までそろっているが、その他は一定期間のみで欠号も多い。なお、かつて横浜市広報センターが収集していたミニ・コミの中に団地自治会のニュース類も含まれており、現在市史資料室が引き継いでいる。ただ、こちらも断片的である。いずれも、複製あるいは原本で閲覧することができる。

各団地では、一九六〇年代初頃から自治会が形成されつつあった。その頃の資料を見ると、多くが手書き原稿のガリ版刷りであった。それが次第にタイプ原稿の謄写版刷りに推移していく。字数が増加して、内容も当然豊富になっていった。しかし、初期のガリ版刷りのニュース類は、手書きならではの勢いを感じさせる。

団地生活

原則自由参加である自治会は、まず自治会への参加を募るところから始めねばならなかった。そのため、団地の生活においてどのような課題があるかを提起し、また住民相互の親睦のために様々な企画をたて、自治会とその活動の意義を訴えた。

たとえば入居五年後の一九六二年に自治会が結成された日吉団地では、様々な住宅補修が課題としてあがっている。雨戸の改修のほか防水・塗装、団地内道路の舗装や街灯設置など、住宅設備および環境の整備は、自治会活動の主要な課題であった。そしてその課題は、時と共にますます多様化していき、その活動の重要性も増していった。

また、育ち盛りの子どもたちを抱える団地住民に特徴的な活動として、団地牛乳があげられる。これは、子どもの栄養のためにも毎日欠かせない必需品であった牛乳をなるべく安く購入したいということから始まった。自治会などが中心となって業者と交渉して、共同購入し、場合によっては団地内の配達も自主的に行うなどして、安く確実に供給を確保しようとしたのである。その方法は、団地によって様々であったが、後の生協の活動などにもつながる消費者活動の一つであった。

多くの団地内に設けられていたマーケットの問題にも、自治会は取り組んだ。団地内のマーケットは商品の質や価格に問題があることがあり、その解決方法の一つとして自主的に団地市場を開設したり、生協に加入したりした。そして、物価問題など本格的な消費者運動に取り組む自治会も現れてくる。

もともと郊外を開発して建設された団地では、最寄り駅までの距離が遠かった。そのため、駅までのバスなど交通機関の問題は多くの団地が共有し



公田町団地自治会報『くでん』第2号 1965(昭和40)年8月25日 牛乳の共同飲用に関する記事が第1面トップを占める。 公田町団地自治会所蔵

日吉団地自治会『自治会ニュース』No3 1962(昭和37)年3月 子ども会、雨戸、道路舗装、コーラス部が取り上げられている。 サンヴァリエ日吉自治会所蔵



十日市場団地のテラスハウス 1961(昭和36)年9月6日 初期の団地にはこのような2階建てのテラスハウスも多かった。 広報課写真資料



上飯田団地牛乳センター 年不詳 団地内に設けられた上飯田団地自治会運営の牛乳センター。詳細は不明だが、ここを拠点に牛乳の共同購入、販売、配達が行われたのだろう。

ていた。バス道路の舗装、バス料金値上げ、バスの増便などが課題となった。他方、家用車の増加と共に、団地内の路上駐車など駐車場問題が浮上してくる。

このように、初期の団地は生活に密着した身近な課題を抱え、各自治会はその課題に取り組むことで、今につながる様々な市民活動を生み出していった。その実態をあらためて知るためにも、団地自治会資料の存在は貴重であり、現在残されている資料がこれ以上散逸することなく保存されることを望みたい。

なお、資料の保存についてご相談がある場合には、ぜひ当横浜市史資料室にご一報いただきたい。(羽田博昭)